

レジメン名称 キイトルーダ(d1)+GEM(d1,d8)維持療法 q3w 胆道癌

ID _____ 患者氏名 _____ 様 (性別 _____)

身長 _____ cm 体重 _____ kg 年齢 _____ 歳 体表面積 _____ m²

薬剤	投与量	投与日
		1 コース 3 週間 Day 1.....8.....15.....22
キイトルーダ	200mg/body	↓
ゲムシタビン	1000 mg/m ²	↓ ↓

注意事項

臨床試験 (KEYNOTE-966) では最大 8 コース、その後はキイトルーダ+ゲムシタビン、またはキイトルーダ単剤 3 週間間隔の維持療法へ

キイトルーダはインラインフィルターを通して投与すること

キイトルーダ：インフュージョンリアクション（気管支痙攣，蕁麻疹，低血圧，意識消失，ショックなど）に注意。

初回および 8 週以上あいた時：心電図モニター、BP、HR などの確認の必要あり（詳細は投与方法の項を参照）

特に注意する副作用

間質性肺疾患、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、大腸炎・重度の下痢、1 型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病肝機能障害・肝炎、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、膵炎、下垂体機能障害
インフュージョンリアクション

投与方法：1日目	
1	生食 100mL ケモセーフロックの フィルター付き 点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒（チェンバー）を 3/4 程度満たす
2	キイトルーダ 200 mg , 生食 50 mL インラインフィルターを通して投与 30 分かけて点滴、メインルートから投与 初回および 8 週以上あいた時、下記を実施 心電図モニター 投与前、5 分後、15 分後、終了時後：BP、HR 測定 投与前、5 分後、15 分後、終了時後：全身状態の確認（呼吸苦、悪寒、発疹、掻痒感、気分不良、嘔気）
3	生食 50 mL メインルートから、ゆっくり、ウォッシュアウト 15 分間、残破棄可
4	グラニセトロン(3mg/100mL) 1V 30 分かけて点滴、メインルートから投与 終了後、メインルートを止める
5	ゲムシタピン mg、生食 100 mL 30 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与
6	生食 100mL メインルートから、ゆっくり、ウォッシュアウト 適宜途中終了可、残は破棄

投与方法：8日目	
1	生食 100mL ケモセーフロックの点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒（チェンバー）を 3/4 程度満たす
2	グラニセトロン(3mg/100mL) 1V 30 分かけて点滴、メインルートから投与 終了後、メインルートを止める
3	ゲムシタピン mg、生食 100 mL 30 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与
4	生食 100mL メインルートから、ゆっくり、ウォッシュアウト 適宜途中終了可、残は破棄